

故郷(ふるさと)

作詞 高野辰之
作曲 岡野貞一
編曲 前田憲男

一
うさぎお
兎追いしかの山 やま

こぶなつ
小鮒釣りしかの川 かわ

ゆめ いま
夢は今もめぐりて

わす ふるさと
忘れがたき故郷

二
いか ちはは
如何にいます父母

つつが とも
恙なしや友がき

あめ かぜ
雨に風につけても

おも い ふるさと
思い出ずる故郷

三
こころわし
志をはたして

ひ かえ
いつの日にか帰らん

やま あお ふるさと
山は青き故郷

みず きよ ふるさと
水は清き故郷

朧(おぼろ)月夜

作詞 高野辰之
作曲 岡野貞一
編曲 小六禮次郎

一
な はなばたけ
菜の花畠に 入り薄れ

み やま は かすみ
見わたす山の端 霞ふかし

はるかぜ ふ そら み
春風そよ吹く 空を見れば

ゆうづき にお あわ
夕月かかりて 匂い淡し

二
さと ほかげ もり いろ
里わの火影も 森の色も

たなか こみち ひと
田中の小路を たどる人も

かわず な かね おと
蛙の鳴くねも 鐘の音も

かす おぼろづきよ
さながら霞める 朧月夜

紅葉(もみじ)

作詞 高野辰之
作曲 岡野貞一
編曲 宮川 泰

一
あき ゆうひ て やまもみじ
秋の夕日に照る山紅葉

こ うす かざ なか
濃いも薄いも数ある中に

まつ いろ かえで つた
松を色どる 楓や鳶は

やま すそもよう
山のふもとの裾模様

二
たに なが ち う もみじ
溪の流れに散り浮く紅葉

なみ はな よ
波にゆられて離れて寄って

あか きいろ いろさまさま
赤や黄色の色様々に

みず うえ お にしき
水の上にも織る錦

花(はな)

作詞 武島羽衣
作曲 瀧廉太郎
編曲 渡辺俊幸

一
春のうららの隅田川
はる すみだかわ

のぼりくだりの船人が
ふなびと
かいかい
権のしずくも花と散る
はなち
ながなが
眺めを何に喩うべき
たと

二
見ずやあけぼの露浴びて
み つゆ

われにも言う桜木を
い さくらぎ
みみ
見ずや夕ぐれ手をのべて
ゆうて
われさしまねく青柳を
あおやぎ

三
錦織りなす長堤に
にしきお ちようてい

暮るればのぼるおぼろ月
くつき
げに一刻も千金の
いっこく せんぎん
ながなが
眺めを何に喩うべき
たと

荒城(こうじょう)の月

作詞 土井晩翠
作曲 瀧廉太郎
編曲 服部克久

一
春高樓の花の宴
はるこうろう はな えん

巡る盃 かげさして
めぐ さかずき
ちよまつ
千代の松が枝わけ出でし
えい
むかし ひかり
昔の光 いまいずこ

二
秋陣営の霜の色
あきじんえい しもいろ

鳴きゆく雁の数見せて
なかり かずみ
うつるぎ
植うる剣に照りそいし
て
むかし ひかり
昔の光 いまいずこ

三
いま荒城の夜半の月
こうじょう よわ つき

替らぬ光誰がためぞ
かわ ひかりた
かき のこ
垣に残るはただ葛
かづら
まつ うた
松に歌うはただ嵐
あらし

四

天上影は替らねど
てんじようかげ かわ
栄枯は移る世の姿
えいこ うつ よ すがた
うつつ
写さんとか今もなお
いま

嗚呼荒城の夜半の月
ああこうじょう よわ つき